

立齋
州峇画譜

初編

212

初編

廣重葦

松林堂梓

筆草の圖

表題の因小

上
下
不
定

叙言

草くさの六む何なんの字じは先さきより。孝ひやく務むは能よくくするが

此を以て余は論を以て思ふ。左松成

今、このころは、ぐに学画のりさう一冊を、いそ見よ、そのひり其昔勢のとま痕。

事、速疾鬼も於もそく、神行戴宗も急

み
お
う
た
、
佛ぶつ説せつ小せう説せつい
つ
は
あ
ま
り
あ
り
、
話わ巻まき

玉佐楠家匠の歌けある御筆と
病者の

鈍^{ちやう}は^ある^り堂^{どう}人^{じん}物^{ぶつ}は^はら^らん^んや^や素^そ素^そ漢^{かん}来^{らい}

立先生の得る所の優れ交はるる音め成て

えー天台の石橋眼のほかに見るは種を

棧橋渡る所なり来る花あま秋の楓を

写しゝいお茶もしく板元の茶を折るを

春のむを画ける様本も彫るもしく因

子ぞよしに形も思ふに数あるも茶うばふ

なもいふ茶畫は是をほるも學ぶ人

老い彼茶畫は是をほるも學ぶ人

等と直ふ妙きゆゑにべし水の通筆

はとく筆抹の甘味より走るのぬる

序文より踏る方

子時亥戌申初秋

柳らなり種負の徳



○画の側よりその名目を知るにつれ人を連なり
後歎の意あるをいふその意あるをいふ人歎の意あるをいふ

三番
 又
 三番
 又
 三番
 又



三番又

三番又



三番又

三番
 又
 三番
 又

金澤八景



菰萩



子の日



古神楽



紋の日



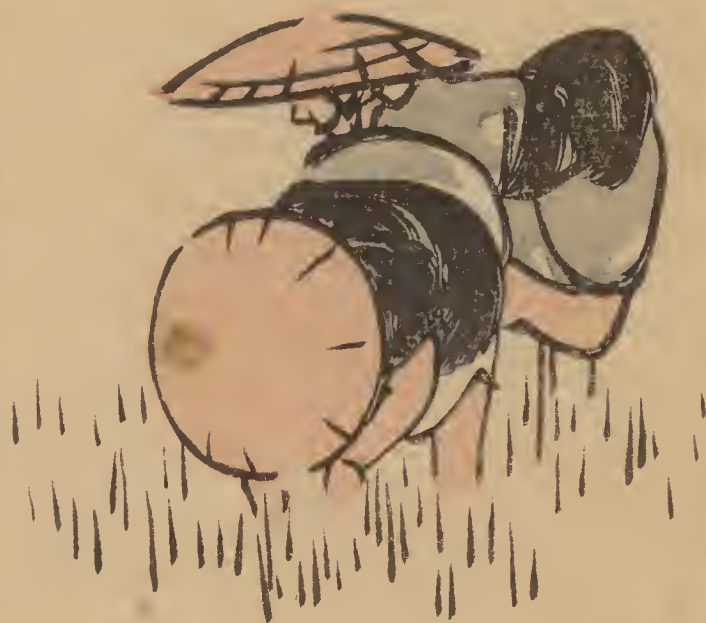
禿



梅見



田植



桑柘



蟹稻



隅田波



主区



田系凉



釣瓶



舟



鬼十



室や



会





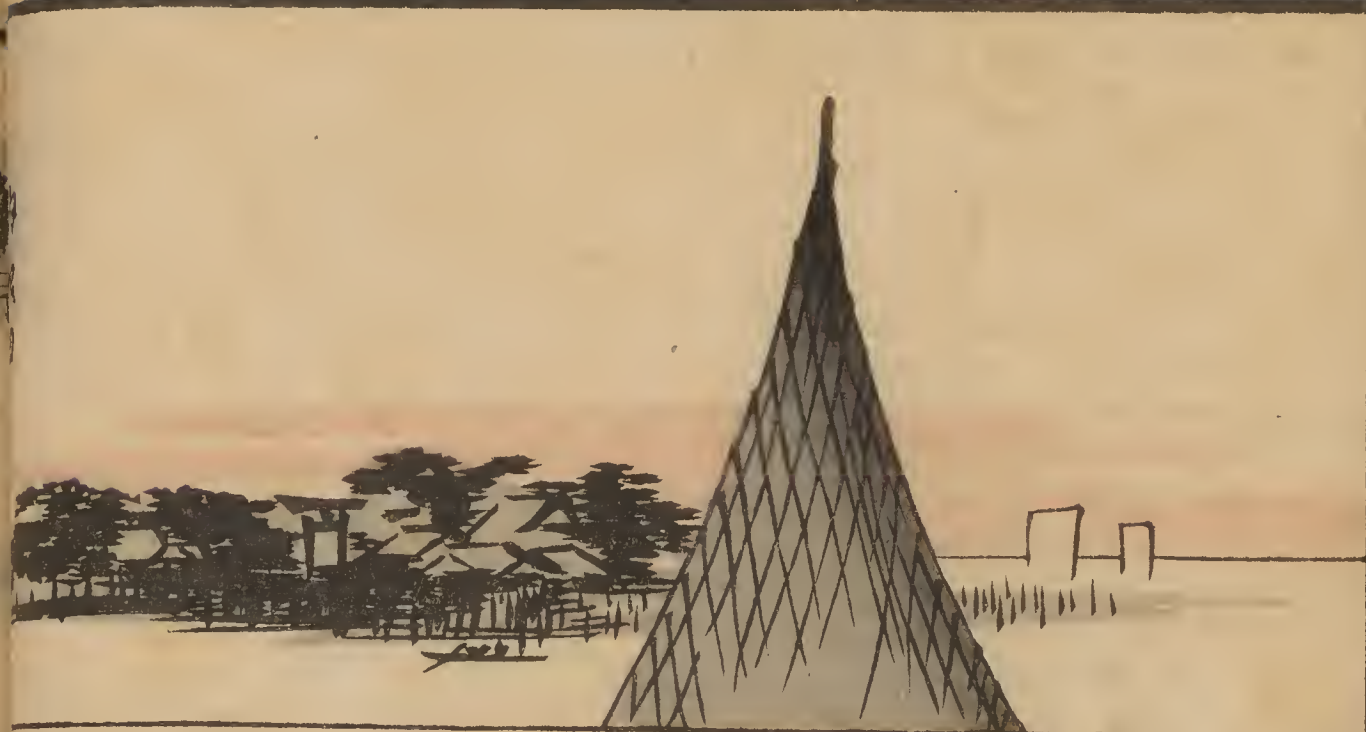
陽田川



不風霧



佃島

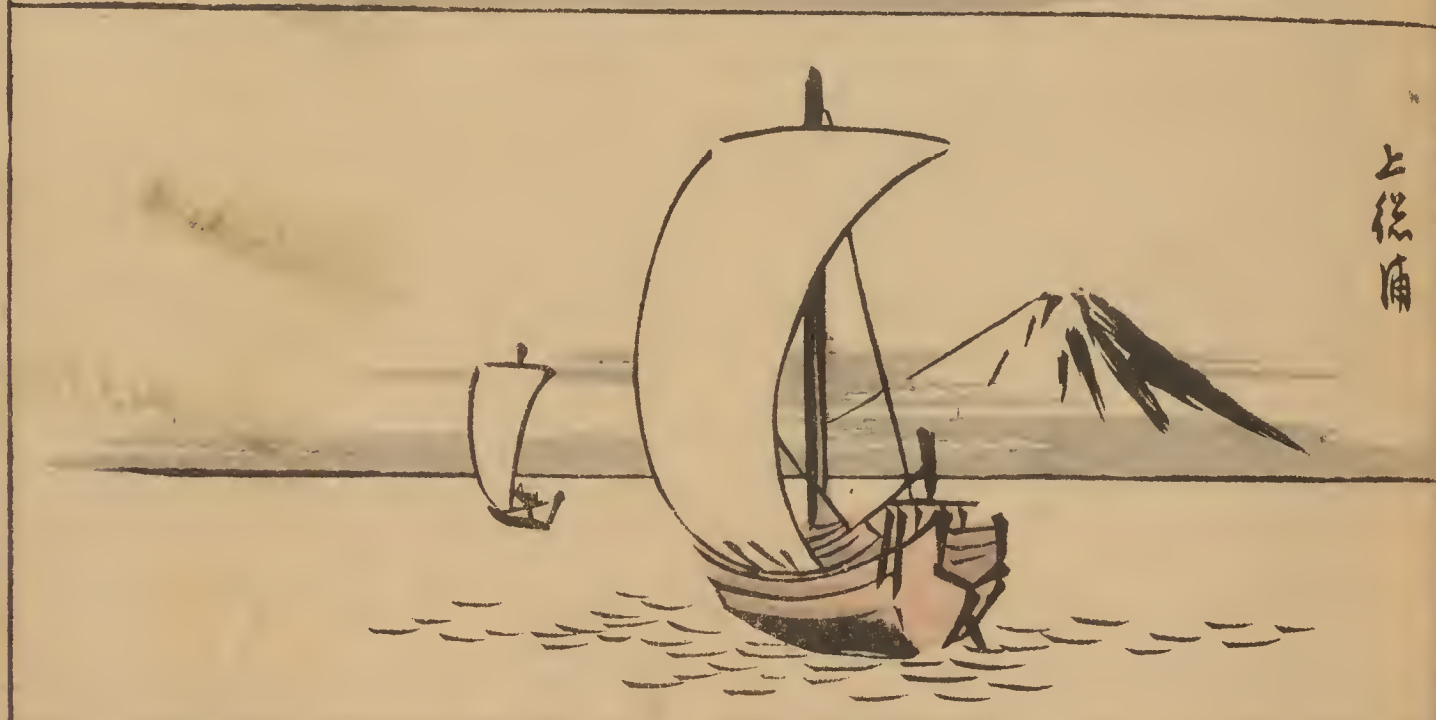


古橋





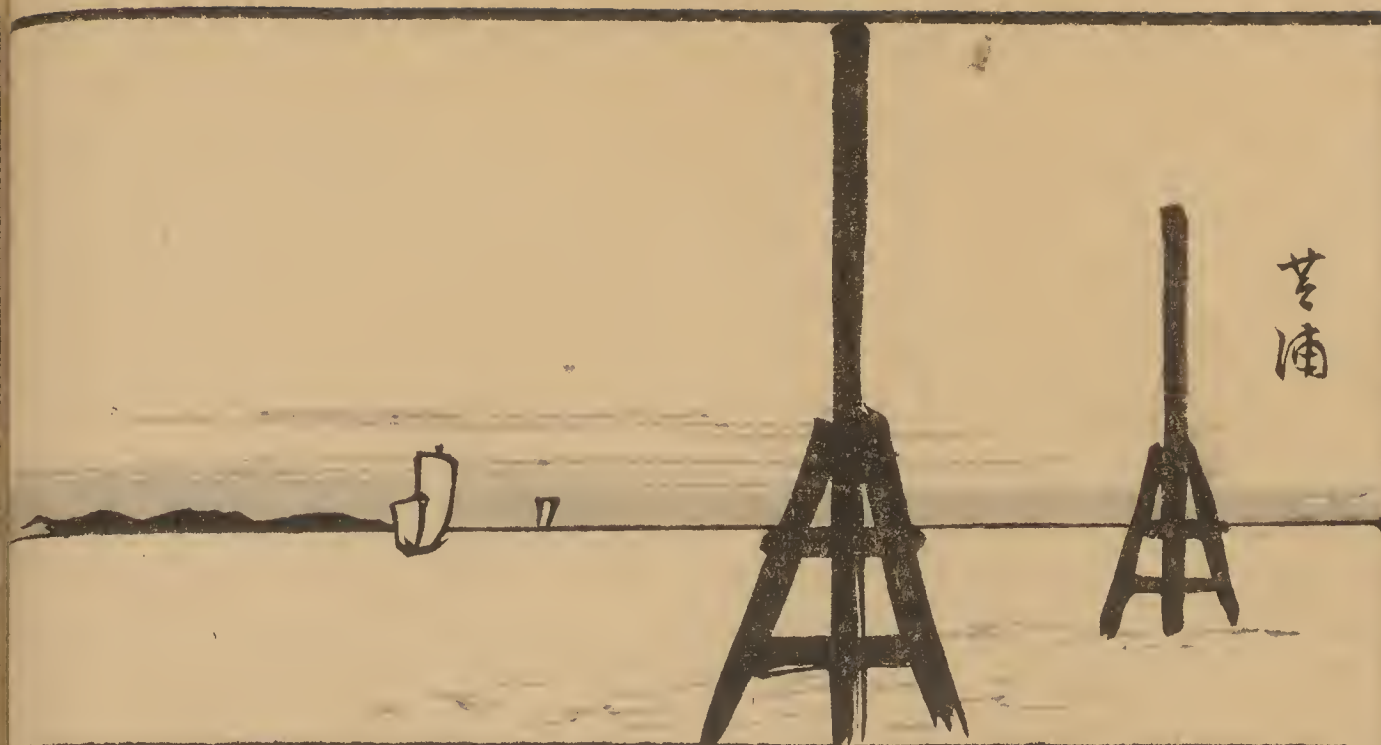
長島



上総浦



三保



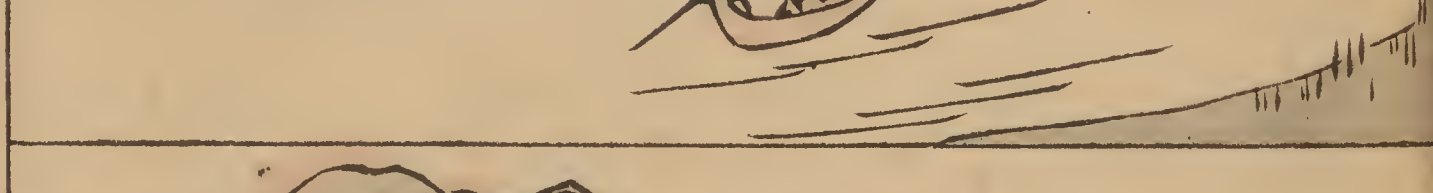
笠浦



四層山



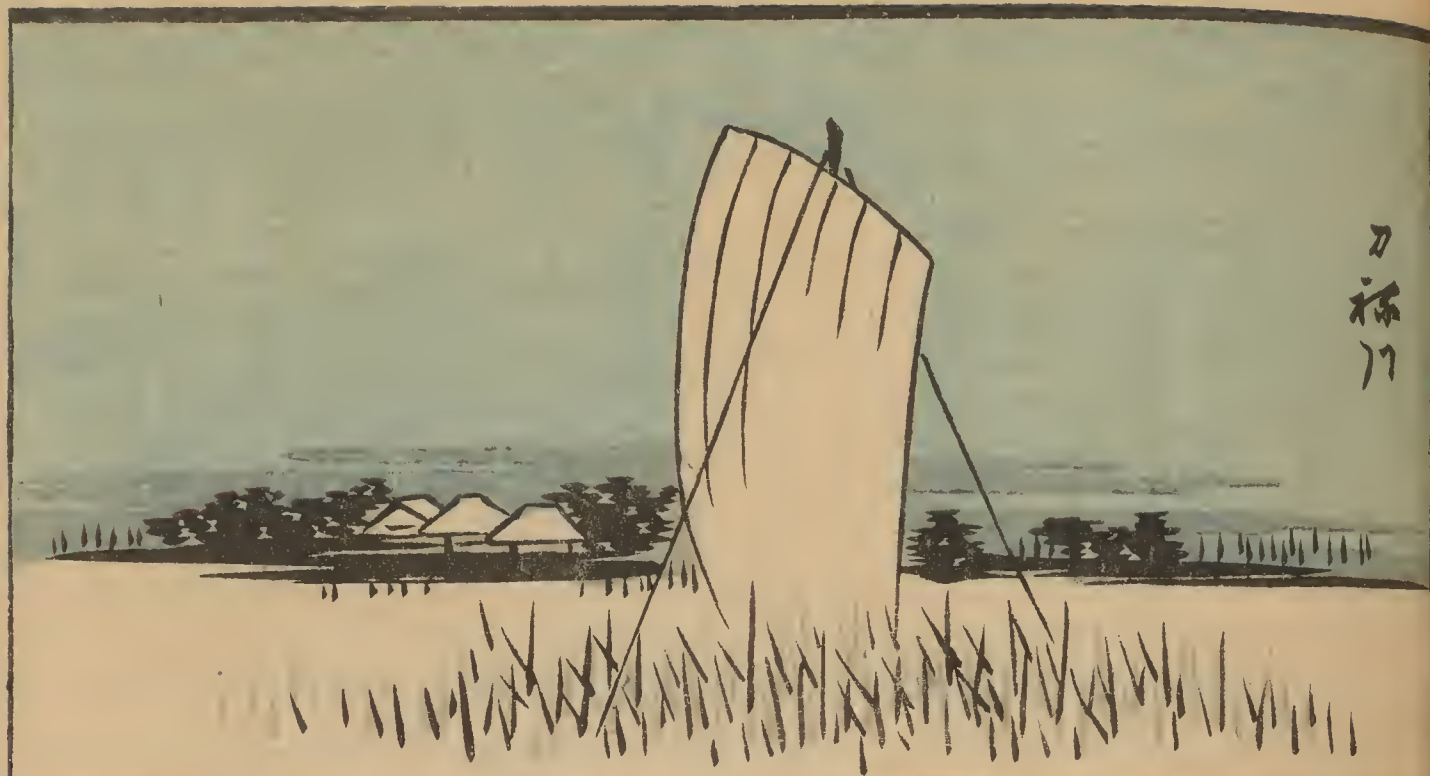
海子岸



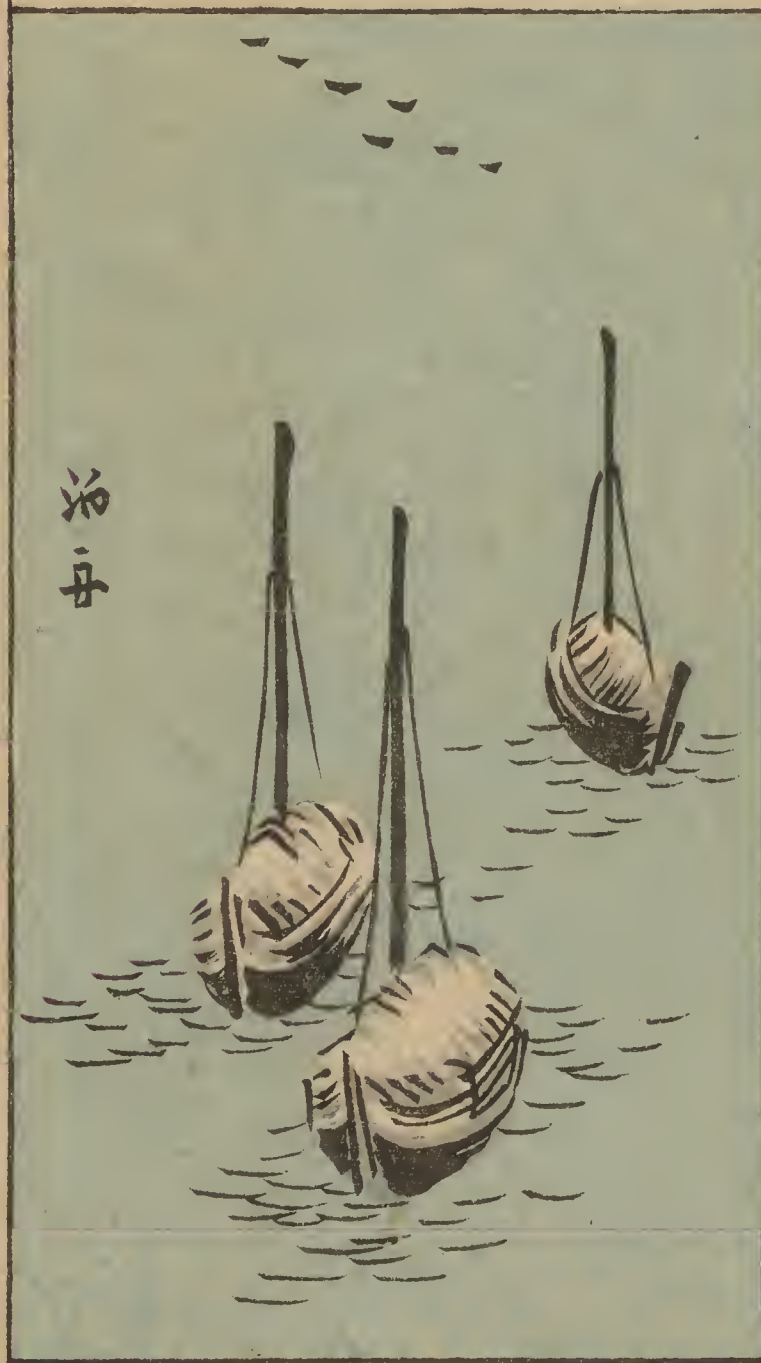
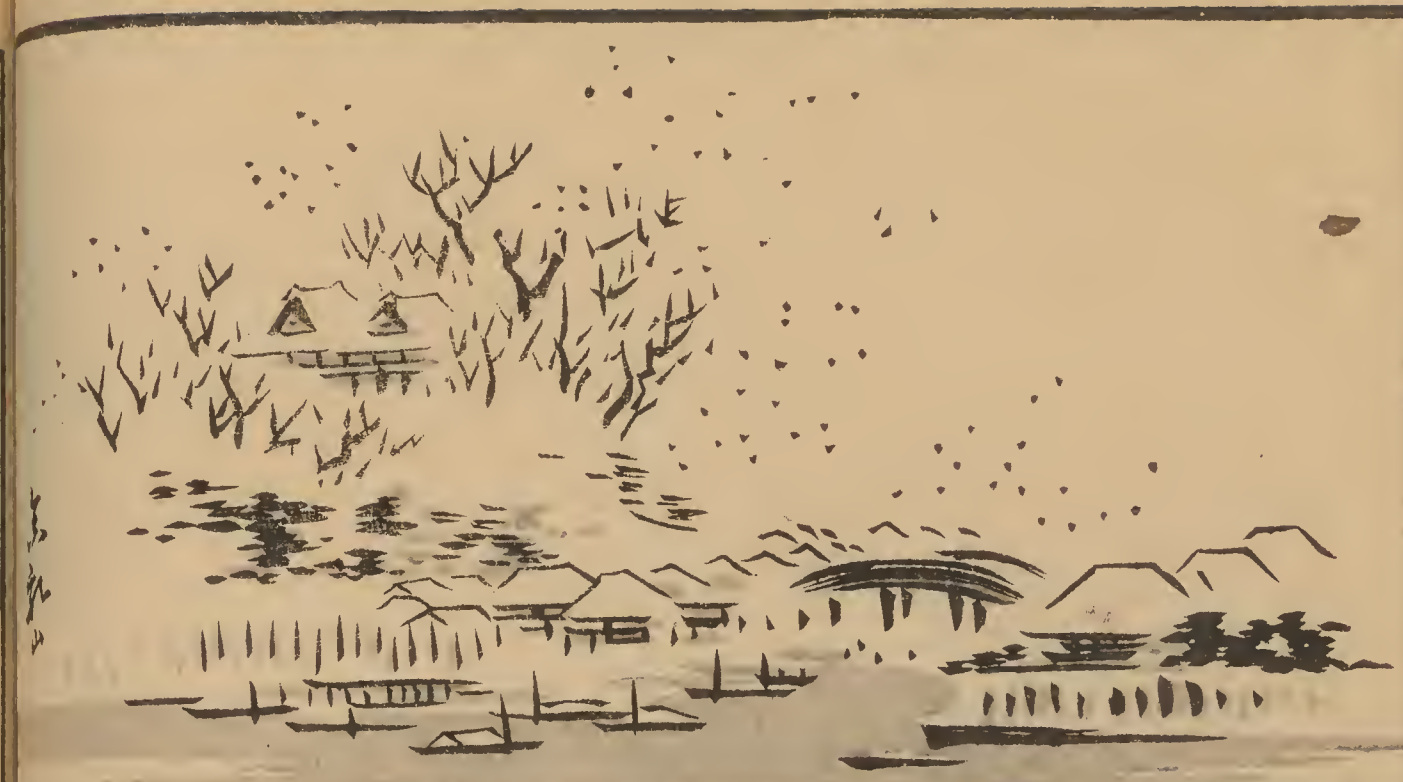
五田川

五田川

五田川



刀標川



舟



白糸谷



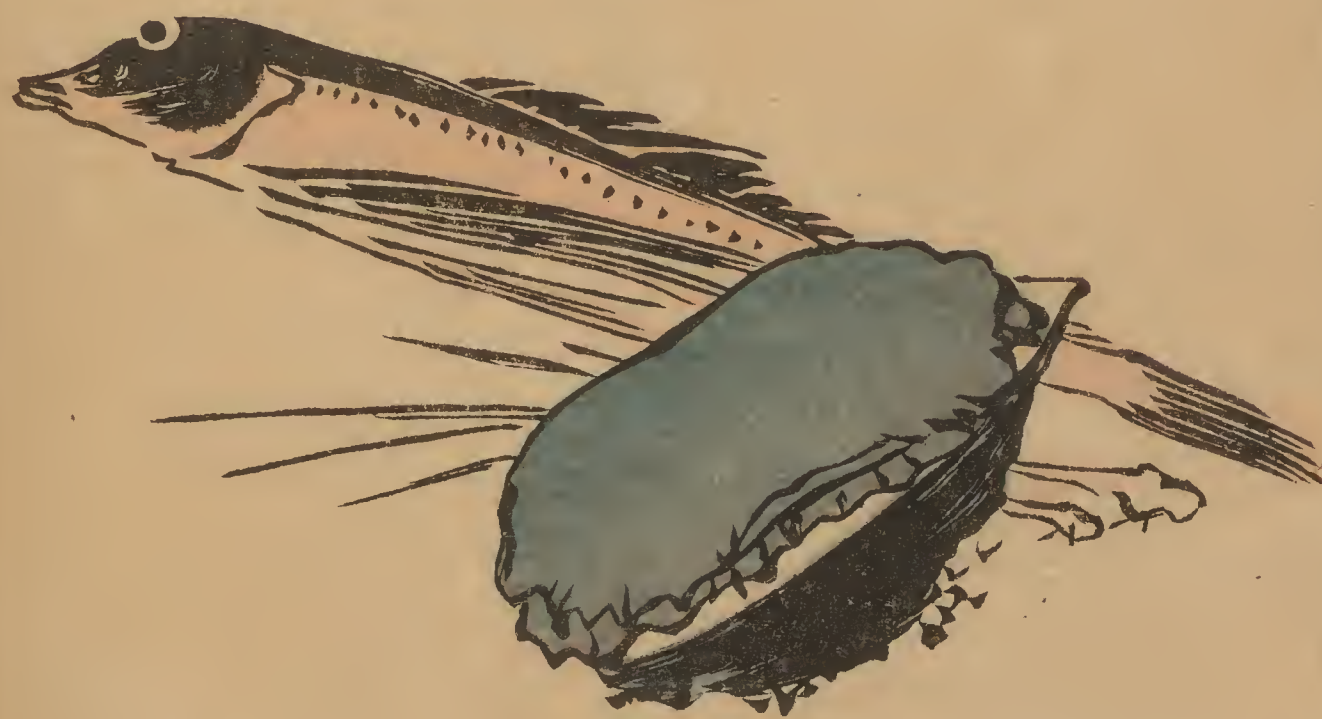
芳野



桔橋











夜楓



江ノ浦



溪山圖



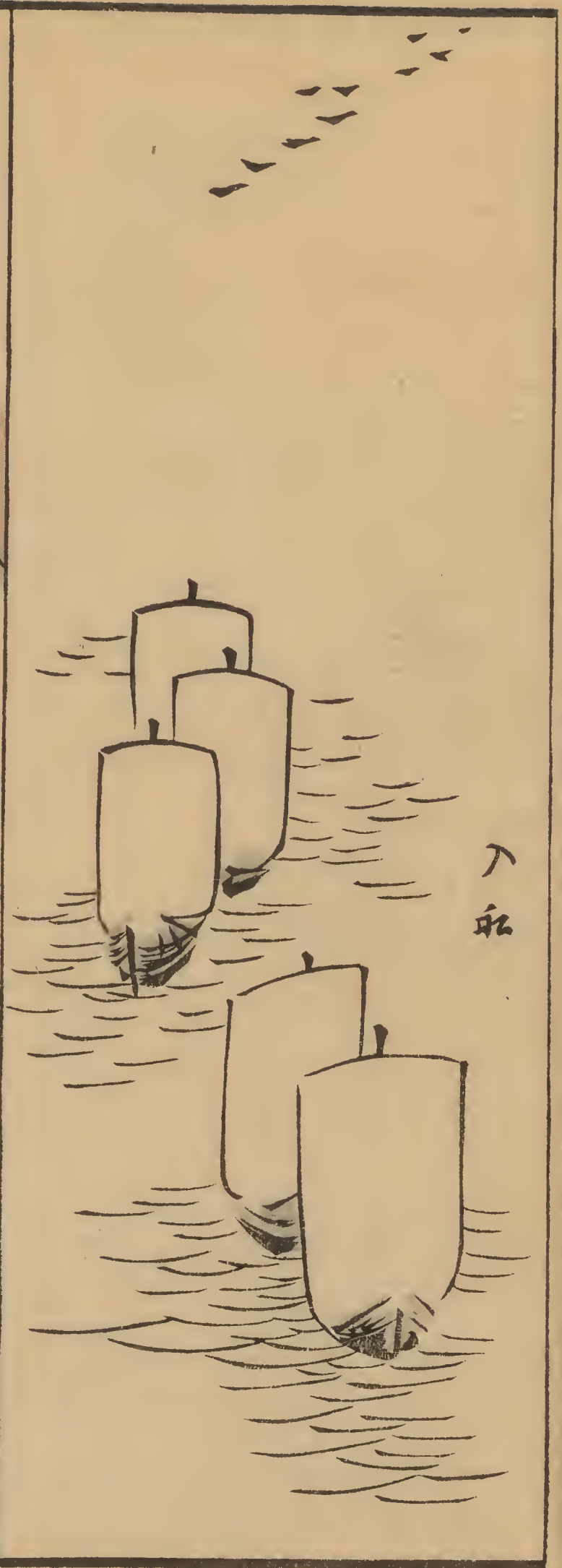
杉田



本宮川



浅野家



入船



山谷川



山



松島



玉川

砂
甘



あ
け

袴
か



腹
鼓



全
踊

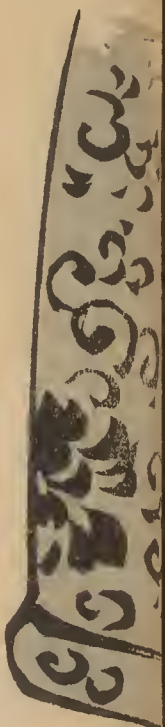


河
童





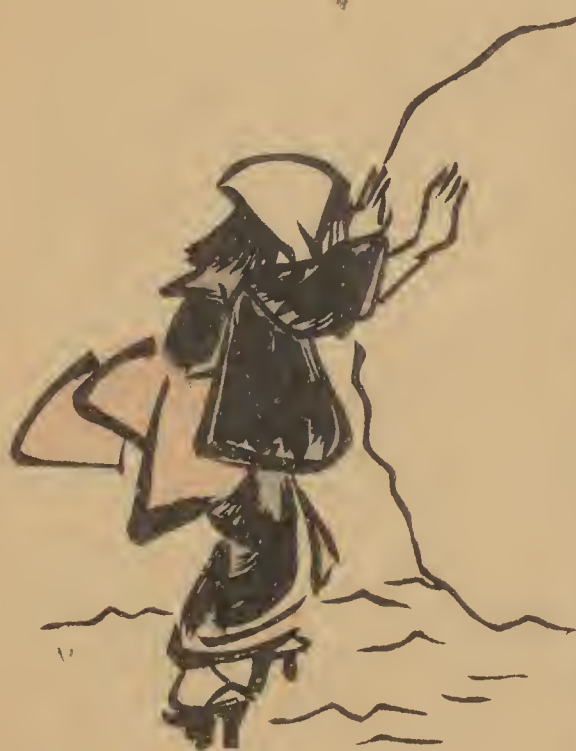
左威古



井戸



虎



天



高

横通



三都書林

京大坂 同東都 同同同同同同同同同同同同同

通油町

| | | | | | | | | | | | | |
|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|--------|-------|--------|--------|
| 藤岡屋慶次郎版 | 山崎屋清七 | 丁子屋平兵衛 | 森屋治郎兵衛 | 山口屋藤兵衛 | 和泉屋市兵衛 | 出雲寺萬次郎 | 同山城屋佐兵衛 | 同山城屋佐兵衛 | 須原屋茂兵衛 | 綿屋喜兵衛 | 敦賀屋九兵衛 | 吉野屋勘兵衛 |
|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|--------|-------|--------|--------|



